

皆様、そろそろ「ついの住み家」を考える時では

2022年11月4日

太田隆次

皆様

11月のテーマは、私達もそろそろ避けて通れぬ、小林一茶にならい「これがまあ、ついの住み家」を提案します。

誰でも家族と共に今住んでいる家で最後まで住めるに越したことはありませんが、世間の大勢は「介護」を軸に、外部の「介護ホーム」一色のように。

顧みると、先人や私達の多くは老親と共に最後の最後まで一つ屋根の下で当たり前のよう生きてきましたのに、核家族化や高齢化のスピードには負けました。

先日、藤本さんから参考になるご経験が披露されましたが、100歳時代ともいわれる時代に、まさに米寿を越えなんする皆様、そろそろ「ついの住み家」の決断の時が迫ってきたように思うのですが、如何でしょうか？

時あたかも、数日前の10月29日付けで「週刊ダイヤモンド」から「介護特集」が、最新の関連法規やデータと共にベスト1000の特集が発刊されました。介護ホームを検討中の方に、ご参考になればと、同誌をアマゾンを通じ謹呈させていただきます。

太田隆次